



生徒総会をタブレットを活用しペーパーレスで行いました!



3月19日(火)、来年度の生徒会活動の方向性を決める生徒総会を行いました。来年度の生徒会のスローガンは、『河東成長物語～色彩豊かな学校へ～』というなんと素敵なフレーズでしょう。事前に、各専門委員会の活動目標や活動計画について各学級で細かい審議が繰り返されました。当日、その意見を持ちより有意義な話し合いが進められました。今の7・8年生によって、これまでの先輩たちが築いてきた河東中生徒会の歴史と伝統を継承しながら、さらにより良い学校を創り上げていってください。

令和5年度末に本校を離任される先生方の紹介

今回の人事異動により、本校の教職員のうち16名の先生方が本校を去られることになりました。本校の生徒のために授業や事務手続き等で大変お世話になりました。名残惜しくありますが、新しい職場でも活躍されることを河東中生徒と関係者一同心より祈っています。なお、異動先については4月1日付での発表となります。

| 離任者 | 教科等 | 在籍年 | 備考 |
|-----------|------------|-----|----|
| 原田 博幸 | 校長 | 4年 | 退職 |
| 田代 典之 | 理科・特学担任 | 13年 | 退職 |
| 管野 かおり | 国語・特学担任 | 11年 | 退職 |
| 今村 素子 | 音楽・9学年副任 | 4年 | 退職 |
| 安田 恵子 | 理科・特学担任 | 13年 | 転任 |
| 高橋 さなえ | 体育・9年3組担任 | 7年 | 転任 |
| 吉松 絵理 | 養護教諭 | 4年 | 転任 |
| 賀門 雅也 | 社会・福岡附属中派遣 | 7年 | 転任 |
| 中野 広貴 | 英語・7学年副任 | 2年 | 転任 |
| 松山 祐司 | 生徒支援担当 | 1年 | 未定 |
| 田淵 優美華 | 事務室 | 3年 | 転任 |
| 田中 良子 | 図書司書 | 2年 | 転任 |
| ダロン・モアヘッド | ALT | 4年 | 未定 |
| 後藤 貴子 | 事務室 | 2年 | 未定 |
| 片山 淡紅子 | 英語・非常勤勤務 | 1年 | 未定 |
| 松尾 かおる | 日本語指導 | 1年 | 未定 |

長い間、『さざんか(学校だより)』をお読みいただき誠にありがとうございました。『さざんか』は校長退職に伴い、本号をもって終了とさせていただきます。4年間にわたってつたない文章を読んでいただきありがとうございました。生徒のみなさんや先生方、保護者の方や地域のみなさんから記事に関する温かいコメントや感想をいただいていたことに、改めて心より感謝申し上げます。

修了式で語った校長最後の式次

～日野原重明先生と森信三先生の言葉をもとに最後のメッセージ～

私(原田)にとって、校長として生徒のみなさんや先生方に式辞としてお話しできるのが最後の機会となりました。数日前から何を話そうかとあれこれ悩みました。今、一番、河東中生に伝えたいことは何か。自分に問いかけ、出てきた答えが、卒業式で9年生に語った式辞を7・8年生にも話そうというものでした。2週間前の卒業式の式辞のために考えたことが、今中学生に出せる自分の中にある最善のものと考えました。聖路加病院の日野原重明先生と日本を代表する教育者の森信三先生の言葉をもとに、お二人がかつて小中学校や大学でされた授業の一部を再現しようとしたものです。

日野原重明さんという医者がありました。心臓病や脳卒中の治療で有名ですが、「生活習慣病」という用語を提案した人として知られています。7年前105歳で亡くなりましたが、晩年は小中学校でいわゆる『命の授業』に取り組みられました。今日は、その授業の一端を再現したいと思います。まず、みなさん、自分の心臓を意識してみてください。今、皆さんは心臓の鼓動を2倍に速めることができるでしょうか。ここにいる誰もできないでしょう。運動することで少々速めることはできますが、人間の心臓の鼓動が1分間に60～100回というのは、意志の力ではどうしようもありません。ちなみに、動物の心臓の鼓動回数は体の大きさに反比例しているそうです。ウサギの心臓は1分間に200回、ゾウは25回という回数は決まっています。

次に自分の胃腸を意識してください。朝食で食べた物の消化を1分間止めることができるでしょうか。どんなに意志の強い気力の勝る人にもできません。人は、よく、生きると言いますが、実は、自由に血液の流れを調整することも、体内の細胞分裂をコントロールすることもできません。日野原さんは、このことを人間は生きるのではなく、生かされているのだと言いました。では誰が生かしてくれているのか。昔の人は天とか神様とか仏とかサムシング・グレートなど様々に表現してきました。

日野原さんは、命の大切さを最晩年、子どもたちにこう語っています。

「命はなぜ目に見えないか。それは、命とは君たちがもっている時間だからだ。どうか一度しかない自分の時間、命をどのように使うかしっかり考えながら生きていってほしい。さらに言えば、その命を今度は自分以外の何かのために使うことを学んでほしい。」と話されました。

さて二人目は、私たち教師の大先輩である日本を代表する教育者の森信三先生の言葉です。森信三先生は、かつてこういう話をされました。

「人間には、生まれてくるとき、一人一人に天から封書(手紙)が与えられている。その封書(手紙)にはそれぞれ各自の役割が書かれ、生まれてきた意味が書かれている」と語られました。

つまり、我々は、生まれてくる意味・目的・役割がそれぞれにあるというわけです。せつかく人間としてこの世に生まれてきたのだから、自分の役割に気づき、果たそうということです。ただ、その封書が心の中のどこにしまってあるのか、いつ開かれるのかはわかりません。

私は、ここ数か月、多くの9年生と、入試面接の練習をしました。すると、その封書をもう見つけているのかなと思う人がたくさんいました。将来の夢を尋ねると、看護師・介護師になりたい、グランドスタッフになりたい、ウェディングプランナー、鳥類学者、自動車整備士、プロ野球・プロサッカー・プロバスケの選手、保育士・建築士、そして学校の先生など様々な将来の夢を語ってくれました。7・8年生のみなさんも、将来就きたい職業を考えている人もいるのではないのでしょうか。一方、これから高校や大学で見つけていきたいという人もいました。

河東中のみなさんには、一人一人に何らかの深い役割があります。それがいったい何なのかは、自分自身にしかわかりません。一瞬早すぎず、一瞬遅すぎず、その封書が開かれる時がやがて訪れるでしょう。その時、河東中で培った力またはこれからつけていく力を発揮して自分にしかできない役割を果たしてほしいと思います。

私事で恐縮ですが、私は小学校3・4年生の時に担任していただいた嵯峨先生が大好きで、学校の先生になることを夢見てきました。幸いにも22歳でその夢を実現し、38年間、教師を続けてきました。嵯峨先生のお陰でこの50年、夢を追いかけて幸せに過ごすことができました。河東中生には、私以上に夢を叶えて幸福に暮らしてほしいと願っています。

最後に、校長から河東中のみなさんに、これまで機会あるごとに幾度となく話してきたことを繰り返します。

- ① 目標を持って、努力を続けることが大事であること。
- ② 結果よりも成長を大切にすること。
- ③ 今も10年後も豊かに生きること、幸せに生きること。

10年後、20年後、河東中生が日本各地、いや世界中に散らばって世のため人のために活躍する姿を想像するほど楽しいこと・胸が躍り鼓動が高鳴ることはありません。河東中生、先生方、保護者の方、地域の方に感謝を込めて、本当にありがとうございました。